

# パラ・クロスカントリースキー・バイアスロン競技 の成果と2018年平昌冬季大会に向けた取り組み

## 今シーズンの成果

今シーズンは、2018年平昌冬季パラリンピック競技大会のメダル獲得あるいは入賞候補選手の体力強化とスキー技術、射撃技術の向上に取り組みました。IPC クロスカントリーワールドカップでは、新田佳浩選手が3位に、阿部友里香選手、出来島桃子選手がともに4位に入賞するなど2年後に繋がる成果を上げることができました。クロスカントリースキー競技では、冬季のスキーシーズン中により多くのスキートレーニング量を確保することが大きな鍵を握ります。冬季パラリンピック競技大会の中間年にあたる2015/16シーズンは、幾つかの国際大会にあえて参戦せずに、走り込み等の課題に積極的に取り組めました。

国立スポーツ科学センター(JISS)において、体力測定を2回にわたり実施しました。クロスカントリースキー競技とバイアスロン競技に必要とされる持久走力、最大酸素摂取量(Vo2.max)等の数値の向上に取り組み、選手達は今までにない高い数値を出すことができました。中学・高校生のパラ・ジュニア強化選手達も、全国中学大会、高校総体への県予選を勝ち抜き、健常者の大会に出場を果たし、活躍することができました。

## 来シーズンに向けた課題

パラ・バイアスロン競技のナショナルトレーニングセンター拠点が網走射撃場に決定し、パラリンピック選手は屋外で負荷をかけた射撃トレーニングをすることができるようになります。クロスカントリースキー競技では、スプリントかディスタンスか、クラシカルかフリーか、選手の特性を把握し、選手の競技種目のプロフェッショナル化を進めます。

## 2018年平昌冬季パラリンピック競技大会に向けた強化活動

2017年3月にIPC クロスカントリーワールドカップ大会を札幌市において開催する計画が検討されています。実現すれば、バイアスロン競技は日本で初めての開催となります。日本選手が世界のトップ選手と競い合うエキサイティングなレースを期待できます。次世代のジュニア選手にも出場機会を与え、将来のパラリンピック選手の発掘・強化をめざします。昨年韓国平昌において国際スキー連盟(FIS)が開催するFISレースへの出場や合宿も行いました。今後、日本チームのトレーニング拠点として、国際大会への出場、夏・冬のトレーニング、ワックス研究等を進めます。

## パラ・クロスカントリースキー競技、バイアスロン競技 2015/16 ワールドカップ総合成績

			CC	BT
男子	立位	新田 佳浩 (にった よしひろ)	10位	
		佐藤 圭一 (さとう けいいち)	21位	8位
		星澤 克 (ほしざわ まさる)	26位	
		岩本 啓吾 (いわもと けいご)	29位	
女子	立位	阿部 友里香 (あべ ゆりか)	12位	10位
		出来島 桃子 (できじま ももこ)	15位	7位

## 2015/16 IPC ポイントランキング

			CC	BT
男子	立位	新田 佳浩 (にった よしひろ)	5位	
		佐藤 圭一 (さとう けいいち)	16位	10位
		星澤 克 (ほしざわ まさる)	29位	
		岩本 啓吾 (いわもと けいご)	24位	
		川除 大輝 (かわよけ たいき)	27位	
	視覚	高村 和人 (たかむら かずと)	26位	29位
女子	立位	阿部 友里香 (あべ ゆりか)	6位	7位
		出来島 桃子 (できじま ももこ)	10位	8位

(CC:クロスカントリースキー、BT:バイアスロン)